

引きこもり 実態を紹介

取材25年超 池上さん講演

当事者や家族に助言も



引きこもりの実態について話す池上さん
(23日、宇都宮市のとちぎ福祉プラザで)

引きこもりの取材を25年以上続けるフリージャーナリスト・池上正樹さん(60)が23日、宇都宮市若草の「とちぎ福祉プラザ」で講演し、引きこもりの当事者やその家族ら約100人を前に、これまでに取材した事例やアドバイスなどを語った。

池上さんは、引きこもりの家族らを支援するNPO法人「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」に発足当初から携わり、現在は副理事長を務める。取材活動では、これまでに当事者100人以上とやり取りを重ねてきた。講演は、同法人

の県支部「KHJとちぎベリィ会」が、発足20周年記念で企画した。

講演では、長年引きこもりだった男性が親の介護に耐えられず、外部の支援にも結びつかなかった結果、両親を殺害した事件などを例に挙げ、「自治体の

認識に温度差がある。情報の遮断された本人や家族が追い詰められていく」と指摘した。

国の調査などによると、引きこもりの背景には精神疾患だけでなく、いじめやパワハラなど多様な社会的要因が潜んでいると

いい、「当事者はなんとかしたくてもできない葛藤を抱えている」と訴えた。当事者が掃除や料理など、家庭内の役割をこなしているケースもあり、家族が感謝の言葉をかける重要性も語った。

質疑応答では、当事者から「支援者側は専門性を振りかざさず、まずは気持ちを理解してもらいたい」などの発言も出た。池上さんは「できないことに着目するより、その人の強みを生かすことが社会につながる一歩になる」と話した。